

# 5-12

ゆとりある生活を求めて

従来型特養でのユニットケアの実践

ほのぼの個別ケア

建設的アプローチ

特別養護老人ホーム サンシャインホーム

介護主任 福王 恵美子

共同研究者 高橋 紀美枝

東京都武蔵村山市伊奈平4丁目10番地の2

TEL 042-531-3741

E-mail info@sunshinehome.or.jp

FAX 042-531-2321

URL www.sunshinehome.or.jp

今回の発表の施設  
またはサービスの  
概要

平成8年4月より特養(100床)、ショートステイ(8床)、認知症デイサービスの3部門でスタートしたサンシャインホームは、10年を経過した今日において、訪問介護、グループホームに加えてユニット型個室(11床)等を展開しております。

## 〈取り組んだ課題〉

- 流れ作業的大規模ケアに疑問。
- お年寄りの生活ベースにあわせた対応が、本来のケアではないだろうかといった現場職員からの意見。
- 対象者を小単位にするユニットケアの実践。
- 小集団にすることで、より細やかなケアを提供したい。

## 〈具体的な取り組み〉

- ユニットケアを実践するためのプロジェクトチームを結成。“生きる、生活”の意を込めて、チーム名称を「リビング」とした。
- リビングメンバー間のユニットケアに対する認識を統一。
- 配膳の一部を入所者とともに行い、生活リハビリとして取り入れた。
- 人員配置、業務時間と内容を検討。4交代制より3交代制へ。
- 介護職員配置をユニット毎に固定。
- ユニット毎に、食事をすることから家庭的な行事活動においても実施した。
- リビングメンバー以外の職員の意識に、差が目立ったことによりパートナーを決め意識改革を図った。
- 入所者のADL、性格、相性等を考慮した居室変更を行い、ユニットの再編成を図った。
- 生活環境とする導線、食堂スペース等ハード面を改造した。
- 民家を利用した「和(なごみ)」と称する逆デイサービスを実施。

## 〈活動の成果と評価〉

- 入所者からの要望が、職員に対して明確化した。
- 職員との信頼関係の構築に繋がった。
- 導線が短くなり、入所者個々人がしっかりと見えるようになった。また、見守りが容易になった。
- 流れ作業が無くなった。
- 親しみと馴れ合いが曖昧。
- 余暇支援の提供に、職員の力量で差が出た。
- 3交代制により、ローテーション勤務の重なりが少なくなり意見交換の場が減少した。
- 職員数が増加した。

## 〈今後の課題〉

- 平成18年4月の介護報酬改正により、職員数が増大した事による人件比率の増大が見込まれる。
- 適正な人員配置とするために、業務の見直し・職員の意識改革に加えて職員個々人のスキルアップの必要性が見えてきた。
- ネガティブな考えではなく、建設的な意見やアイデアをもとに、職員の働き甲斐を見いだすこと。



職員の意識改革によって、モラルの向上が見込まれることで、建設的な意見や提案をもとに働きやすい環境を構築できる。→更に、お年寄りへゆとりや優しさのあるサービス提供ができる。